

佐伯市門前遺跡

〈はじめに〉

大分県教育委員会（文化課）は平成十五年十月二十六日（日）、門前遺跡の発掘現場で午前中十時から説明会を開催した。当日は天気にも恵まれ、三十名を超える多数の佐伯史談会員や市民の熱心な考古学ファンが集まった。参加者は、担当職員より発掘の経過や時代背景・門前遺跡の遺物・遺構など解説があった。以下、現地説明会の資料を全部掲載する。（矢野）

〔現地説明会資料〕

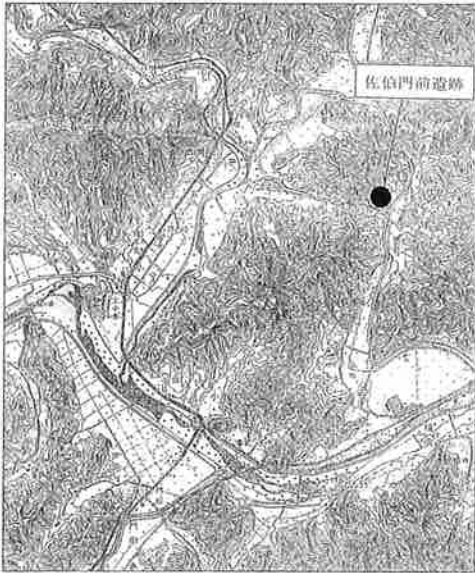
はじめに

東九州自動車道（津久見―佐伯）建設工事に伴って、大分県文化課では平成十四年から津久見―佐伯間の発掘調査を進めてきました。平成十四年度平成十四年九月、平成十五年一月にかけて、津久見の門前（もんぜ）で朝日寺（ちよういちじ）という中世の寺院跡の調査をしました。本堂地区と呼ばれる所で、大量の瓦や陶磁器類が出土しました。その出土遺物からこのお寺は十四・十五

世紀頃に創建され、十六世紀には廃絶したと考えられます。この調査で津久見の「門前」（もんぜ）という地名は、この朝日寺の門前（もんぜん）であったということが考えられます。

今年度からは佐伯の門前地区の調査に入っています。津久見の門前はお寺の「もんぜん」であるならば、佐伯の門前は何の「もんぜん」なのでしょう？

近くには梅牟礼城という中世の佐伯氏の山城があり、



門前遺跡の位置

その麓には古市地区という地名が残っています。昔からこの辺り一帯は、中世佐伯氏の居館と城下町集落があったのではないかと推定されているところです。以前行われた試掘調査では、掃木地区と古市地区でいずれも十五・十六世紀代の陶磁器類が出土し、中世の遺構が確認されています。

現在発掘調査をしている地区からも、十六世紀代と思われる輸入陶磁器などが試掘調査の時点で発見されており、何らかの施設があったことが窺われます。ただ、後世の開発により、中世の遺構を確認することはできませんでした。

しかしながら、この佐伯の門前地区は寺もしくは佐伯地区の有力者の居館の「もんぜん」である可能性は非常に高いといえます。

今年度の調査

平成十五年五月から佐伯門前遺跡の調査を始めました。調査地区は県道36号線を佐伯市から津久見市に向かって走ると、弥生町に抜ける峠を越す道とぶつかりますが、その交差点から津久見方面へ二十メートル程行った左手の谷部に

あります。

調査区は弥生町から佐伯市に延びる尾根と尾根の間に扇状に広がる谷の中腹に位置しています。谷の傾斜に沿ってアカホヤが一面に堆積しており、深い所では五十センチ以上の堆積があります。

その下には黒褐色をした土が堆積しており、縄文時代早期（約八千年前）の遺物を確認することができます。※アカホヤとは明黄色をしたキノコ状の軽い火山灰で、鹿児島県の喜界カルデラを噴出源とする広域火山灰のことで、約六千三百年前のものです。

遺物

アカホヤ層の中から、古墳時代の土器や中世の陶磁器片などが出土しています。また、縄文時代後期（約三千〜三千五百年前）の三万田式土器なども出土しています。



アカホヤ

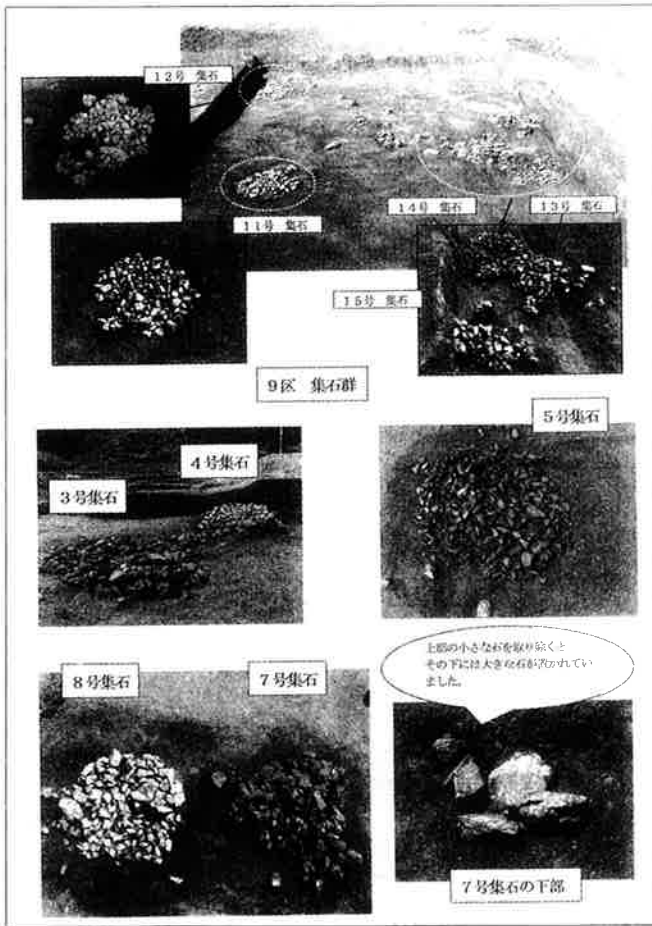
このことからこの調査区のアカホヤは二次堆積の可能性もあるようです。

アカホヤ層の下の黒褐色土層からは、縄文時代早期や石器を作るときに石を打ち欠いた破片などが出土しています。土器は皆さんがよく

目にする縄目のついた土器ではなく、文様が何もない無文土器や貝殻などを土器の表面に押しつけ、沈線文様を描く条痕文土器などが出土しています。また、木の実などを磨りつぶすときに使ったと思われる磨石や、石を打ち欠いて作った礮器も出土しています。

遺構

黒褐色土層から縄文時代の人々が生活した跡が見つかっています。住居跡など



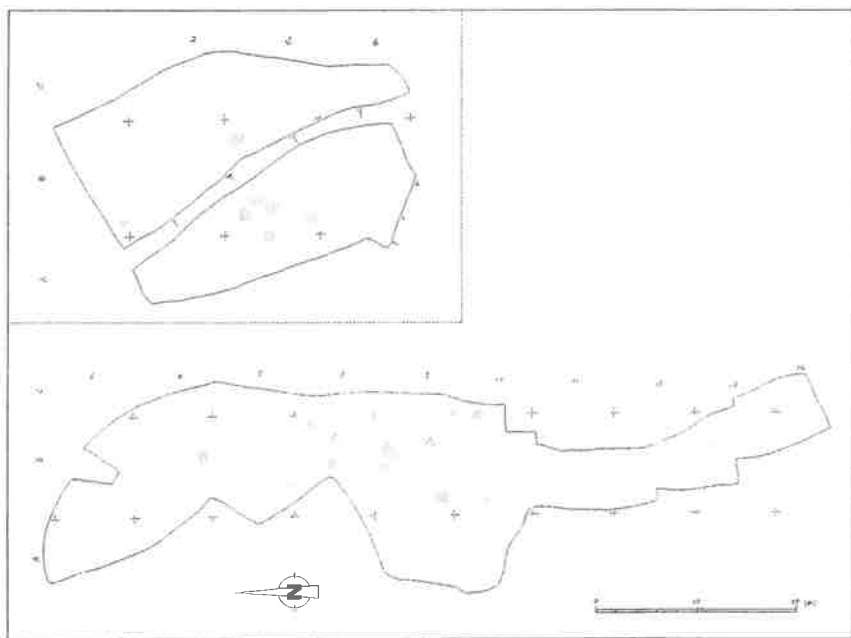
9区 集石群

は今のところ見つかっていませんが、「集石」といってこぶし大の石（礫）をたくさん集めた遺構が現在十五基ほど見つかっています。どの集石も石が赤く焼けており、熱を受けていることが分かります。中には下部に大きな

石を敷いているものもあります。

また、規模は直径五十センチほどの大きさのものから直径が一メートルを超えるものもあります。この集積は何のために用いられたのかは明確な結論は出ていませんが、焼けた石が多く見られることから、煮炊きするときの炉のようなものとして利用されていたとする見解がなされています。そのほか墓の上部に石を積み上げたものではないかという見解もあります。

集石遺構はほぼ調査区全体にわたって確認できますが、調査区の中程（9―B区）で集中して検出しました。前頁の写真がそれです。



佐伯門前遺跡集石配置図



現地説明会（仮設の集合場所）



現地説明会（説明を聞く考古ファン）



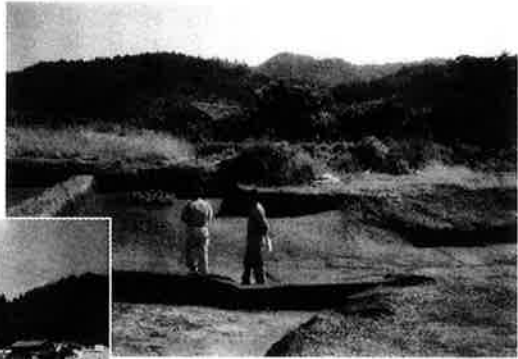
遺跡の調査（集石遺構）



現地説明会（遺跡を巡検する参加者）



調査員から説明を聞く参加者



遺跡の調査員（集石遺構）



尾根と尾根の間に扇状に広がる谷の中腹に位置する遺跡



門前地区に新しくできた民家



新しくできた民家（遠望）



ほぼ調査区全体に確認された集石遺構